学校番号	1016

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	自立支援 数学Ⅰ	単位数	１単位	年次	３年次
使用教科書	「新編数学Ⅰ」　（数研出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・ 授業では、課題に対して、自ら考える活動を行います。答えが出せるための方法を覚えるのではなく、その方法を理解しましょう。
・プリントの課題に取り掛かり、各自答え合わせをして、間違った問題があれば解けるようになるまで再度挑戦しましょう。
・ 個人に合った内容を行うので、その都度変更していきます。苦手意識を持たずに取り組みましょう。

2　学習の到達目標

数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することをめざす。
(1)図形と計量の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(2)図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を養う。
(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	図形と計量における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。	図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現することができる。	図形と計量を通して数学のよさを認識し、数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期 2学期	図形と計量	三角比 ・ 三角比 ・ 三角比の相互関係 ・ 三角比の拡張	a:鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や鈍角の三角比の値を求めることができる。 b:図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。 c:三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 ﾜｰｸｼｰﾄ	ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返りｼｰﾄ
3学期		三角形への応用 ・ 正弦定理 ・ 余弦定理 ・ 正弦定理と余弦定理の応用 ・ 三角形の面積 ・ 空間図形への応用	a:正弦定理、余弦定理を理解し、それを用いて平面図形の計量をすることができる。 b:図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、考察することができる。 c:正弦定理や余弦定理の有用性を認識し、平面図形の計量に活用しようとしている。	定期考査 確認ﾃｽﾄ	定期考査 ﾜｰｸｼｰﾄ	ﾜｰｸｼｰﾄ 振り返りｼｰﾄ

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度